

令和7年度 高千穂町立高千穂小学校 評価書

A：十分達成（80%以上） B：おおむね達成（70%以上～80%未満）  
 C：やや不十分（60%以上～70%未満） D：達成不十分（60%未満）

重点目標①【更なる学力向上及び特別支援教育の充実に取り組みます】

評価指標 評価項目・数値目標	自己 評価	結果の考察及び改善策等
1 学力向上プランの確実な実施 2 分かりやすく、児童が安心して取り組むことができる学習環境の整備 ・学級経営【生徒指導の4機能「自己決定の場の提供」「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「安全・安心な風土の醸成」】 ・望ましい学習態度の育成「学習規律」 ・ICTの活用「ICTの利点を生かした授業づくり」 ・特別支援教育の視点による個に応じた授業づくり「ユニバーサルデザイン」 ・特別支援教育の支援体制の充実「支援員との連携」「教職員の相互支援」	B	○ 児童の学習に主体的に取り組む姿、「わかった」「できた」という実感はやや減ってはいるが、ほぼ昨年度と変わっていない。昨年度に比べ、教職員のA評価「十分達成」が増え、教員のユニバーサルデザインを土台にした授業づくりをより意識的に取り組んでいることが分かる。今後も更に、児童がわかる・できる授業づくりを目指して、個に応じた学びをさらに進め、授業改善を図りたい。 ○ 積極的で、かつ効果的なICTの活用を更に推進していく。 ○ 特別支援教育の支援体制を更に工夫・改善していく。
評価	A A A B B B ⇒ B	
学校運営協議会委員コメント		
○ 良い環境で学習できていると思います。先生方も大変とは思いますが、今後もよろしくお願いいたします。 ○ 十分に授業で取り組まれています。 ○ 活動内容について満足しています。これからの研鑽に期待します。 ○ 児童が積極的に授業に取り組んでいる事が各教室を回ってみると毎回ながら感じている。ICTの活用、皆にわかりやすい授業、環境現場の変化。これからも児童のわかる、できる事の喜びを実感しながら成長していく姿を楽しみにしている。教職員の方々の努力に感謝をしている。 ○ 引き続き児童の学習意欲が上がるような工夫をこらした授業をしてほしいです。児童には達成感やできる喜びを味わってほしい。成功体験が学習意欲につながると思います。 ○ 学力向上に向けての教師の積極的な取り組みがアンケートの結果などからもわかる。生徒へのアンケート結果からも、ほぼ全ての生徒が授業内容を理解できていることがわかる。 ○ 子どもたちの自己評価も90%を超えて肯定しており充分成果は出ていると考えてよいのではないかと。約12名位の子どもの居場所づくりを探してやる必要があり、保護者との連携が更に求められる。		
学校運営協議会での協議		
○ ユニバーサルデザインの授業を行っていくことで、誰でも「分かる」「できる」が実感できる授業を展開する。 ○ 今後もさらに、ICTを活用した学習に積極的に取り組んでいく。		

重点目標②【心の教育をさらに充実させます】

評価指標 評価項目・数値目標	自己 評価	結果の考察及び改善策等
1 学級経営「自己肯定感」「認め合い」「自己有用感」・・・「信頼・安心・存在感」 2 道徳教育や人権教育、言語環境の充実、思いやりのある子どもたちの育成 3 生徒指導の充実 ・「あじさいためお(あいさつ)」「はしみあいな(廊下歩行)」 ・不登校やいじめの早期発見、早期解決(サイン、問題発生→共有、迅速な対応) 4 読書活動の充実…興味のあることから、本を手にする習慣化 ・本のもり ・読み聞かせ(ボランティア) ・「Yomokka!(よもっか)」の利用(1～3年生) ・県立図書館運営の無料電子書籍サイト「ひなた電子図書」の導入 5 緑化活動(栽培活動、草抜き、落ち葉の清掃等)を通じた情操教育	B	○ 生徒指導連絡会やサポート連絡会において、全職員で情報交換を行い、いじめや悩みへの早期対応を適切に行うことができている。不登校児が、教育支援センターを利用することができている。更に、保護者や関係機関との連携を密にして、対応していきたい。 ○ 「イチハピ運動」を通して、よい行いを褒めることで、あいさつや正しい学校生活が学校全体で身に付いてきている。 ○ 読書活動は十分推進され、個人差はあるものの本に親しむ児童が多い。
評価	A A B B B B B ⇒ B	
学校運営協議会委員コメント		
○ 学校の備品などを大事に扱わない児童が増えた気がしますが、学校だけでなく家庭・保護者からの指導も必要です。 ○ 充分達成されています。 ○ R6年のアンケートよりも読書や読み聞かせがあまりできなかつたと読み取りました。(R6は外遊びが充実していたので、その反動かも)。※職員・行政・保護者間の情報を密にすることに期待します。 ○ いじめはどうしてもなくなれないかと思っている。しかしながら、学校側での思いやりのある子供たちの育成、人権教育 etc…、児童への指導、「あじさいためお」「はしみあいな」今回の「イチハピ運動」等々、よくなされていると思う。やはり一番は早期対応及び情報の把握だろうと考える。読書活動は十二分になされている様に感じており、更に続けてほしい。 ○ イチハピ運動が浸透していると思います。誰かのために良いことをして、自分もハッピーになる良い取り組みだと思えます。不登校の児童が、どんな形であれ、心の平常を保ち、学習できる環境にあることを希望します。 ○ 教師が生徒の日々の行動を良く観察し、指導していることがわかる。生徒へのアンケート結果からも、教師の指導によって生徒達が日頃の良き習慣を身に付けようとしていることがわかる。特に本校の読書活動は文部科学大臣の表彰を受ける程にすぐれたものになっていることは大いに評価される。生徒達に感謝の気持ちをもって食することの大切さが伝わってきているようだ。 ○ 保護者の人権に関する設問で15人の人が否定的な見解をもっていることに懸念を感じる。		
学校運営協議会での協議		
○ 児童の些細な変化も見逃さず、児童や保護者に寄り添った対応を今後も行っていく。 ○ 人権教育を充実させていくことで、さらに児童が人権感覚を身に付けるようにする。		

重点目標③【体力の向上及び食育・健康教育の推進に努めます】

評価指標 評価項目・数値目標	自己 評価	結果の考察及び改善策等
1 体力向上プランに基づいた運動の習慣化、姿勢指導（立腰の定着） 2 家庭と連携した基本的な生活習慣の育成（早寝・早起き・朝ご飯・保健指導） 3 望ましい食育活動の推進（食育指導）	B	○ 児童の体力向上については、児童の実態や課題に焦点を当てた指導に取り組むとともに、強化週間・強化月間等を設け、重点的な指導をしていく。 外遊びは、天候等に留意しながら個に応じた外遊びを推奨していく。 ○ 感染症の流行に際しては、マチコミメールで家庭への協力の呼びかけ等を行い、健康で安全な校内環境を整えた。 養護教諭と学級担任が連携して、児童の健康や性に関する指導を更に推進していく。 ○ 給食指導の時間や授業などで、食育に関する指導を栄養教諭と担任が連携しながら指導を行うことができた。望ましい食習慣について、今後も家庭への啓発を進めていく。
評価	A A B B B B B ⇒ B	
学校運営協議会委員コメント		
○ 外遊びや体育は良くできていると思いますが、夏期で気温が高い日など、外に出たくとも出られない日があるのは残念であります。 ○ 達成されていると感じます。 ○ 前年度よりも外遊びができたアンケート結果が出ているので継続してほしいです。☆給食のありがたさは、高校～社会人になると切実に感じます。日頃からその様な指導もされていると思いますが、再度行うことも良いのではないのでしょうか。 ○ 外遊びをする児童が少なくなってきたが、道路上での遊びが増えてきているように思う（スケボ等）。私自身は、もう少し視点を変えて山遊び、里山での遊びを推奨したい。体力向上面でも、良いと思われるし、また自然の面でもいろんな発見があると思う。給食は現在のまま続けてほしい。とても美味しいと思うし、児童も楽しみにしているようです。 ○ 朝や昼休みに外遊びをする姿を見かけます。これからも小学生らしく元気な姿を見せて下さい。 ○ まだまだ感染症の影響が長引いているので、子供を外で思いきり遊ばせるのは少し難しいかもしれない。しかし、昔から子供は風の子、太陽の子と言われるように「日々外で思い切り遊ばせるのが一番良いことである」点は忘れないようにしたいものだ。アンケートの結果で、外遊びがほとんどできなかった子供が1割程度いる点が気になる。その原因を知りたい。 ○ 地域の食材や料理が給食に反映されており、帰属意識の高まりを感じる。		
学校運営協議会での協議		
○ 公園で遊ぶ児童もいるが、少ないようである。室内でゲーム等をしている児童が多いのではないかとと思われる。ゲームやメディアとの関わり方を学ぶ取組を、今後もさらに家庭も交えて行っていく。		

重点目標④【家庭や地域との連携をさらに深めます】

評価指標 評価項目・数値目標	自己 評価	結果の考察及び改善策等
1 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）及び地域学校協働活動の充実 ・地域があって学校がある～保護者や地域が教育活動に関わりやすい学校の在り方 ・地域人材と連携した「ふるさと教育」「キャリア教育」（総合的な学習の時間等） 2 「幼・保・小・中・高」、「家庭・地域」、「関係機関・団体・企業」等との連携 3 PTA活動の充実、地域活動への協力 4 子どもの危機管理能力の育成（防災教育、避難訓練等）	B	○ 地域の方の協力を得て、伝承活動や地域学習を進めている。地域学習では、地域の方だけでなく、保護者や関係各所の協力を得ながら学習を進めることができた。今後もさらに、キャリア教育・地域学習を更に推進していく。 ○ 学年に応じた、幼稚園や保育園、小学校、中学校、高校と積極的に連携することができた。 ○ 学期ごとの避難訓練を通して、児童の危機管理能力の育成に努めることができた。
評価	A A A B <sup>+</sup> B B C ⇒ <b>B</b>	
学校運営協議会委員コメント		
<p>○ 各地区で「子ども会」が少なくなっているなか、学校で地域と関わる機会があるので、ありがたいと思います。</p> <p>○ 充分評価しています。</p> <p>○ 活動・結果に満足しています。これからも変わらぬご指導をお願いします。</p> <p>○ 実地教育は本当に良いことだと思う。地域の人々も更に学校を身近に思うだろうし、児童も地域愛がより芽生えてくるだろうと思われる。先生方の負担も考えられるが続けてもらいたい。今後もキャリア教育、地域学習が充実していく事を望む。危機管理能力の育成は今、非常に大事な事だと思う。知っている、知らないとでは、大変な差が出ると思われるので。</p> <p>○ 地域と学校のつながりをより一層深めていきたい。先生方にも地域の行事に参加するなどして地域の顔見知りを増やしてもらおうと協力体制がより強固になると思います。</p> <p>○ 学校として地域社会との密な関係を強めようと努力している姿勢は評価される。ただ、それが教師の過重な負担にならないようにしてほしい。</p> <p>○ 保護者の評価でみると地域人材の活用に不満を持っている人が40人を超える。偏りはないかなど検証が必要。中高連携の在り方に不安をもつ保護者が一部見受けられるのではないかな。</p>		
学校運営協議会での協議		
<p>○ 地域人材を活用した学習のことを、学校ホームページや学級通信等でさらに積極的に紹介することで、学校と地域とのつながりが保護者へ分かりやすく伝わるようにする。</p>		

重点目標⑤【教職員一人一人が、自らの資質向上に努めます】

評価指標 評価項目・数値目標	自己 評価	結果の考察及び改善策等
<p>1 資質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ O J T…主題研究、教え合い、見せ合い、声かけあい、情報交換など</li> <li>・ O f f – J T…個人研究、研修会や講座への参加「参：新しい研修制度教員育成指標」</li> </ul> <p>2 ワークライフバランス(私生活と仕事の両方の充実) ⇒ 「生きがい」「働きがい」(私生活)リフレッシュ(自分のための時間)、家族孝行(家族と過ごす時間)等(仕事)チャレンジ(積極的な資質向上)、楽しみ発掘(感動的場面、児童変容)等</p>	<p>B</p>	<p>○ 日頃から教職員間での指導法の情報交換はできている。また、若い教職員を育てる研修の場・研修の機会を設定することで、資質の向上を図っていく。</p> <p>○ 研修をとおして、働き方改革への意識を高めることができた。2学期からは週時程・校時程を変更し、放課後に若干の時間を見出すことで、負担の軽減をすることができた。今後も負担の軽減することで、教師一人一人がより魅力ある人間となるように、働き方改革を推進していく。</p>
評価	A A A B B B 無 ⇒ B	
学校運営協議会委員コメント		
<p>○ 若い先生や経験が浅い先生が多いですが、児童のために良くしてくれると思います。多少のトラブルはあると思いますが、地域家庭で見守っていく必要があります。</p> <p>○ 充分評価しています。</p> <p>○ 学校に携わる先生方や職員の皆様の肉体的・精神的良好が生徒のためになると思っています。これからも活動をお願いします。</p> <p>○ 教職員の方々の授業時の様子が、明るくてハキハキしていて、いつも好感をもって見えています。ただ言われている様に仕事量が多いという事、健康面を心配しています。ワークライフバランスをお願いしたい。</p> <p>○ 若い先生方が多いですが、ベテランの先生方とお互いの良さを活かしながら、より良い労働環境づくりを。児童にとって一番身近な働く大人が先生なので、生き生きと働く背中を見せてほしいです。</p> <p>○ 少子化の下で、学校教育の改善、充実に向けて日々努力を重ねていらっしゃる先生方に敬意を表したい。教師を目指す若者が減少している昨今であるが、教師はやりがいのあるしごとであることを社会に更にアピールできるよう努力してほしい。私達も応援したい。</p> <p>○ ChatGPT の活用など事務的な仕事の軽減を図ることで余裕時間の活用も積極的に勧めてほしい。</p>		
学校運営協議会での協議		
<p>○ 若い教員、経験の浅い教員を、ベテラン教員が支え、育てていくことで、本校の教育力をさらに充実させていく。</p> <p>○ 教職員の働き方改革への意識が高まってきているようで、時間外勤務時間はだんだんと減ってきている。通勤時間・通勤距離が長い教職員がいるので、体調管理には十分に留意してほしい。</p>		